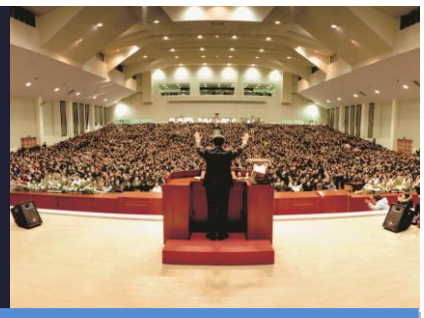
第 2019-25 号

恵みと真理のニュース



2019 年 06 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

私の家庭に時によって恵みを与えて下さり、尊い勧士の職分を下さった神様に感謝と賛美を捧げます

母がお寺に通っていて誰よりも熱心に偶像崇拝をした家庭で５人兄弟の中で二番目の子で生まれ育ちました。私が幼い時は田舎からソウルに引っ越しました。母は相変わらず、真心を尽くしてお寺にお参りをしました。青少年の頃に友達から伝道されました。福音を聞いて母が偶像崇拝を仕えることが間違っていることであるのを知るようになりました。
以後、私は心が苦しい時に家族知らずに隣の村にある教会に行って十字架の下で膝をまずいて主に祈りました。“イエス様、私に出会わせてください。“私を癒し祈りを聞いてください。” このように祈って家に帰って来たりしました。そうするある日、道である二人のおばさんが教会の主題で対話しながら牧師の説教を聞いて恵みを受けたと話すのを聞きました。その教会に行ってみたくて日程を決めて教会に向かいました。ちょうどその日が苦難の主日でした。説教を聞くときに、まるでシナイ山でエリヤ予言者が精密に神様の音声を聞いたように私にも話してくださいました。“主があなたを祝福し、あなたを守られるように。 主が御顔を向けてあなたを照らし／あなたに恵みを与えられるように。 主が御顔をあなたに向けて／あなたに平安を賜るように。 ”空いていた心が主の平安でいっぱいになりました。今もその時、受けた主の平安が私を守ってくださいます。
魂の救いの意味を知って、イエスキリストに対する信仰を告白して私が救われたことを確信してからは私は熱心に礼拝を捧げながら神様が生きておられるのを体験して主日ことにあちこち路傍伝道をしました。青年部で奉仕しながら主日には教会学校の教師として学生たちを仕えました。“わが子よ、蜜を食べてみよ、それは美味だ。滴る蜜は口に甘い。 そのように、魂にとって知恵は美味だと知れ。それを見いだすなら、確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない。”（箴言２４：１３，１４）説教御言葉を聞いてまた、聖書の御言葉を読みながらこの御言葉の意味が自然に理解できました。主は恵みと摂理で兄弟に出会い結婚しました。
私たちの夫婦が結婚して３年が過ぎて旦那の伝道と助けで母もイエス様を信じるようになりました。母は両手を挙げて降伏するように主の前で出ました。妹は急に精神病が出来て足に鎖をしたまま施設に入って生活をするようになりました。その後、母は人格的に主に出会い今朝の祈りを休まずに熱心にしました。勧士の職分を受けて最後まで相変わらず信仰を持って主と教会を仕えながら賛美し天国に召されました。私たち５人兄弟の中で弟がまだ偶像崇拝を仕えています。しかし、時になるとイエス様が弟を神様の懐に呼ばれると強く信じます。“主、イエス様を信じなさい。そうすればあなたの家族が救われます。 “イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。”約束した御言葉が必ず成し遂げられることを確信します。８６年度に私が娘を出産したとき、きれいな娘の両方の瞳の位置が普通より下にあって目を開けるとまるで半月のように見えました。母は“イエス様、私の孫の目を治してください。”しながら涙で神様に祈りました。私の夫婦も切に神様に祈りました。そうするある日、娘の目が正常的な位置に戻っていました。ハレルヤ！生きておられる神様、全能なるラパの神様であることを告白しながら神様の恵みに感謝を捧げました。私は娘が幼稚園に通うときから連れて伝道に力を尽くしました。
９２年にアンヤン市で引っ越しながら私たちの家族は恵みと真理教会を出席しながら信仰生活をするようになりました。以前通っていた教会と異なって牧師の蜂蜜のような説教が入っている福音ニュースでイエスキリストを信じない方々を伝道するともっと効果的で福音を伝えることが出来てもっと楽しい心で伝道することが出来て楽しかったです。
中学校の卒業を控えて進路を決める時、私は娘が大学進学のため人文系の高校に入るのを願いましたが、娘は自分の適性に従って実業高校に入ろうと自己主張をしました。娘の決心が強くて私は祈りながら神様の御旨に委ねました。そうしたら娘は高校を卒業をしながら４年大学に随時で合格して、大学を卒業する時、金融会社に奇跡的ようにすぐ就職しました。私たちが全て求めるよりもっと溢れるように神様の恵みを再び経験しました。神様を信頼して祈りをすると神様は私たちに一番良いもので答えてくださるのを確実に証明してくださいました。何よりも愛する娘が我が教会で真実な青年に出会い結婚して尊い信仰の家庭の作るように摂理してくださって福を与えてくださった神様の大きい愛と恵みにわたしはもっと感謝と賛美を捧げます。どころが、主を信じて仕える人生にも大きい危機が来ます。去年、娘が甲状腺とリンパ腺ガンの手術を受けるようになりました。若い歳に受けた癌手術なので心配になりました。すべての家族が神様を仰ぎながら癒しの恵みを求めました。感謝することに手術が成功的で回復も早かったです。それで、娘はしばらく休職をして再び職場に復帰することが出来ました。すると、今回は婿が職場の問題で苦しみました。化学系の会社に通う婿がそこで業務が多くて体が弱くなり仕方なく退職しました。今まで娘の病気のため祈ったが婿のため祈り続けました。
祈りをする中で婿が同じ化学系の会社に入社試験に最終合格しました。しかし、この喜びもしばらく、以前に通っていた会社を退職するときのような業種の会社で５年間、移植できないという書約をしたのが問題になってすぐ、入社が取り消されました。そうする中で娘が妊娠したのを知るようになりました。娘の癌を癒して下さり、新しい命まで与えてくださる神様に感謝を捧げて私の心がもっと切なくなり神様の助けを求めました。すると、婿が今年３月に同じ業種ですが分野が少し違う化学会社の入試試験に合格しました。今回はその誓約書が影響を及ぼさない会社だから気が楽になりました。ところが、今回は入社の日が限りなく延期されたと聞かれました。どんなプロジェクターの推進のため職員を選んだのですが、そのプロジェクトーが延期されたからだと言われました。どんでもないお知らせでした。失望していた教区伝道師を通して今年、我が教会の処理執事の任命式が１０月で延期されて娘と婿が資格になり追加でも仕込みできると話を聞きました。私は教区長と娘の夫婦に勧める神様が下さる職分と使命が世のどんな職分より尊くて、どんなことより大事である職分を愛して請願書を提出するようになりました。聖霊様が感動を与えて下さり、娘と婿が喜んで感謝する心で請願書を提出しました。
その後、まもなく会社から婿が驚いて喜ぶお知らせが来ました。プロジェクターと関係なくすぐ出勤しなさいと連絡が来ました。婿の再就職の問題が完全に解決するようになりました。今回の事を通して私は巨魁の清い職分を愛する者に神様が大きい福を与えてくださる事実を深く悟るようになりました。続いて５月６日に私が勧士の職分を受けました。恵みと真理教会の勧士になって教会と聖徒達を仕えるようになって魂の金持ちになりまるで世のすべてを得たような感じがしました。
　次の日に何げなくさわって見た私の首に固い塊がさわれました。心配になる時、フィリッポ４章６節と７節の御言葉が覚えて私の口から恵みと真理賛美357章の賛美を歌いました。そのように2時間、祈りながら賛美したら首にあった固い塊が瞬時になくなりました。神様の恵みで治療されたのです。その日から私は3日間断食祈りをしました。職分を担えることにあってサタンととうとう対敵して勝つように、霊肉共に強くなり職分を担えるように祈りました。聖霊が大きい慰めと力を下さるのが感じました。新しい決心と覚悟をするようにしました。神様が健康と信仰と賜物をくださり必要なすべてを与えてくださるのを確信しました。
　8月に癌に勝った娘が孫を産む予定です。神様が娘と婿に執事の職分を下さり、尊い子まで下さるのを考えるとその恵みと愛に限りなく感謝するようになります。私が恵と真理教会の勧士の教養と品位を身に着けて全身全力をして主の事をしながら聖徒から手本になるように神様に祈ります。私たちの家族が主の体である教会と福音伝道のため大きく献身するのを願いながら神様に祈ります。神様に栄光を捧げます。

[信仰コラム]　このようなお祈り（2）

”わたしの名によって願うことは，なんでもかなえてあげよう...”（ヨハネによる福音書14:13、14）

聖書に記録されたヨシャパテとヒゼキヤのお祈り、彼らが直面した状況とお祈りした内容そして神様の応答について調べてみましょう。
第一は、ヨシャパテのお祈りについて調べてみましょう。
ユダヤ国のヨシャパテ王は神様を敬う信仰が徹していて善政を施した王に属します。しかし、国政運営に失策がありました。北イスラエルの邪悪な王、アハブと手を握りラモテ･ギレアデを取り戻すことに同盟して参戦して惨敗しました。それによって国力が弱くなったことに乗じてモアブとアンモンとマオンそしてエドムが連合してユダヤ国を侵攻しました。ヨシャパテ王は我に返って神様に向いて求める一方、全国民に断食してお祈りするように公布しました。ヨシャパテ王が聖殿の庭に集まった会衆の中に立ってお祈りしました。”われわれの先祖の神，主よ，あなたは天にいます神ではありませんか。異邦人のすべての国を 治められるではありませんか。あなたの手には力があり，勢いがあって，あなたに逆らいうる者はありません...われわれの神よ，あなたは彼らをさばかれないのですか。われわれはこのように 攻めて来る大軍に当たる力がなく，またいかになすべきかを知りません。ただ，あなたを仰ぎ望むのみです”
神様がレビ人ヤハジエルを通じてメッセージをくださいました。”この大軍のために恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく，主の戦いだからである...この戦いには，あなたがたは戦うに及ばない。ユダおよびエルサレムよ，あなたがたは進み出て立ち，あなたがたと共におられる主の勝利を見なさい。”ヨシャパテが地にひれ伏すと、全ユダヤとエルサレム住民もひれ伏して神様に敬拝しました。翌日の朝、民達が朝早く起きてテコアの 野に向いて出発しながら賛美し始める時に神様が奇異で驚くべきなことを行われました。神様が伏兵を設けられて仲間争いが起るようになさい、互いに殺戮しました。ユダヤの民が野の物見やぐらに至り戦場を見ると地に倒れた死体だけでした。
第二は、ヒゼキヤ王のお祈りについて調べてみましょう。
ヒゼキヤ王はユダヤ歴代王の中で信仰的な面では最上の評価を受けるほどに神様に仕えて戒命を行うことに積極的で熱誠的でした。ヒゼキヤが王位に上って 14 年になった年に危篤な病にかかりました。予言者イザヤが王を訪問して病が致命的なことであることを知らせるとヒゼキヤはエホバに痛哭しながらお祈りしました。神様がヒゼキヤのお祈りをお聞きなさり、応答なさって病が完全に癒されて三日目になる日に聖殿に上がりました。そして寿命を 15 年も延長されました。その後、強大国であるアッスリヤの王セナケリブが第 2 次侵攻をした時でした。アッスリヤの軍隊がエルサレム城のすぐ前まで進撃してきて、アッスリヤ王の臣下ラブシャケがヒゼキヤをあざ笑いました。するとヒゼキヤは服を裂いて荒布を身にまとってイザヤ予言者に臣僕を送り切迫な危機状況を知らせながらお祈りを頼みました。イザヤ予言者は所望的な神様のメッセージを聞かせてくれました。以前として状況の変化がなく、脅威は加重されたがヒゼキヤは挫折せずに返ってより積極的に神様に叫びました。エホバの殿に上がり、セナケリブが送った最後通帳の書信を開いて神様にお祈りしました。神様の助けを通じて諸々の国が神様を知るようになるよう願いながらお祈りしました。
神様がイザヤ予言者を通じて応答してくださいました。神様がユダヤを救われるので却ってアッスリヤがユダヤのからかいの対象になると言われました。神様に頼る者を誹謗してあざ笑い、邪魔することは神様に向いた行為にみなされると言われました。セナケリブの企てが無駄になり、ユダヤ国が再び回復されると言われました。” 万軍の主の熱心がこれをなし遂げられる”としました。イザヤ予言者がエルサレムの救いを予言した日の夜にアッスリヤの兵士 18 万 5 千人が全部死にました。神様が天使をお送りなさって懲罰なさったのです。アッスリヤ王セナケリブは辛うじて死を免れて急にアッスリヤの首都ニネベに退いて、彼が仕える神殿で敬拝する時に二人の息子によって殺されました。
皆さんが難関に直面した時、ヨシャパテのお祈りとヒゼキヤのお祈りを再び読んでください。お祈りすることに役に立つでしょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

心を確定して、賛美せよ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

心に確定された信仰を表明することが信仰告白です。心が確定されない状態を指して二つ心を抱いたとします。今日は、神は心が確定した人を通じて権能を示すのを喜ばれるとを聖書の事例で、まず調べた後、私たちが持つべき心の確定が何かを調べてみましょう。

まず、神は心が確定した人を通じて権能を現すのを喜ばれるを見える聖書の事例を見てみましょう。

第一に　師士ギデオンと三百人の勇士の例をみましょう。

イスラエルの民が偶像崇拝を落ちたので、神は彼らを罰を下ろして 7 年間、ミディアンの圧制を受けるようにしました。イスラエルの民が神に叫びので、神はイスラエルを救うためにギデオンを師士に指名されました。心を確定していないギデオンは神に言いました。 **「わたしは羊の 毛一頭分を 打ち 場に 置きますから，露がその 羊の 毛の 上にだけあって， 地がすべてかわいているようにしてください． これによってわたしは， あなたがかつて 言われたように， わたしの 手によって イスラエルをお 救いになることを 知るでしょう」**しました。その日の夜、神は、そのままにしました。 **ギデオン は 神に 言った， 「わたしをお 怒りにならないように 願います． わたしにもう 一度だけ 言わせてください． どうぞ，もう 一度だけ 羊の 毛をもってためさせてください． どうぞ， 羊の 毛だけをかわかして，地にはことごとく 露があるようにしてください 」** その日　夜　いよいよギデオンは神を依頼して、ミディアンの軍事を攻撃することに心を確定しました。
ギデオンが軍事を募集したら、3 万 2 千人が集まりました。神は募集された軍事が多いとしてから「恐れておののく者を返しなさい。」としました。神は万人しか残っていない軍事をもう一度選別して削減するようました。 **「民はまだ 多い． 彼らを 導いて 水ぎわに 下りなさい． わたしはそこで， あなたのために 彼らを 試みよう． わたしがあなたに 告げて『この 人はあなたと 共に 行くべきだ 』と 言う 者は， あなたと 共に 行くべきである． またわたしがあなたに 告げて『この 人はあなたと 共に 行ってはならない 』と 言う 者は，だれも 行ってはならない 」 そこで ギデオン が 民を 導いて 水ぎわに 下ると， 主は 彼に 言われた，「すべて 犬のなめるように 舌をもって 水をなめる 者はそれを 別にしておきなさい． またすべてひざを 折り， かがんで 水を 飲む 者もそうしなさい 」． そして 手を 口にあてて 水をなめた 者の 數は 三百人であった． 残りの 民はみなひざを 折り， かがんで 水を 飲んだ． 「わたしは 水をなめた 三百人の 者をもって， あなたがたを 救い， ミデアン びとをあなたの 手にわたそう． 残りの 民はおのおのその 家に 歸らせなさい 」** そのままにしたので、残りの者は三百人だけでした。水を飲む姿勢が意味することがあります。
ひざまずい伏せ飲む者は当面の渇きを解決するために汲々とする人々です。手で水をかがんで水を飲む人は、自分が今、なぜ、ここに来ているのかを自覚して、その目的に 忠実しようとする人です。神を頼って、ミディアンと戦って勝利を得たいと心が確定した人でした。

ギデオンは三百人を三つに分け、手にラッパと空瓶を叩いて瓶の中にたいまつを隠しました。そして敵陣へ接近してラッパを吹いて瓶を壊し左手にたいまつを持って大きく叫んで敵を囲みました。敵が慌てて自分たちの相手が剣で打ってあたふた逃げました。神はこのように心が確定した者を使用し、それらを通して神の権能を現しておられます。

第二に、イエスの上着を触れた長血の女の例をみましょう。

十二年間も 長血をわずらっていて患ってた女性がいました。この女性は、イエスが言われることと驚くべき信じられないほどの癒しについての噂を聞きました。 この 女がうしろから近寄って　み衣のふさにさわったところ， その 長血がたちまち 止まってしまうと期待感が生じました。そんなの　ある日、イエスは女が住んでいる町を通り過ぎました。女性は、イエスの服に手を触れてもよいという信念に心を確定しました。女性は、人々がイエスを取り囲んでいくことを見ました。女性は死力を尽くして装丁の間を割って入って、その血の気なく細い腕を伸ばして、イエスの服に手を触れました。「イエスの服に手を触れても、私は癒されるだろう。」という心の確定による信仰は、イエスから癒しの力が出てきて長血をすぐに癒しになりました。今も、神の力は心が確定した人を通じて現します。

次は、必ず持たなければならない心の確定が何かを見てみましょう。

第一は、神のみ愛して仕える心を確定しなければならない。

モーセが死んだ後　神がヨシュアを選択して立て使命と任務を任せられました。ヨシュアはイスラエル人をカナンの地に導いて、その地を占領して分配しました。ヨシュアは　一様に心と思いを尽くして神を仕えました。百十歳になったとき、ヨシュアが別れのスピーチをするために、イスラエルの各部族の指導者たちをシケムに招集しました。ヨシュアは今に至るまで、イスラエルを守り、導きくださった神様の救いの歴史を振り返させながらこのように結論を出しました。 **「それゆえ， いま， あなたがたは 主を 恐れ， まことと， まごころと， 眞実とをもって， 主に 仕え， あなたがたの 先祖が， 川の 向こう， および エジプトで 仕えた 他の 神を 除き 去って， 主に 仕えなさい． もしあなたがたが 主に 仕えることを，こころよしとしないのならば， あなたがたの先祖が， 川の 向こうで 仕えた 神でも， または， いまあなたがたの 住む 地の アモリびとの 神でも， あなたがたの 仕える 者を，きょう， 選びなさい． ただし， わたしとわたしの 家とは 共に 主に 仕えます」（ヨシュア記　24：14,15）**
ジョシュアの心に確定した信仰の言葉を聞いた民が一つに答えました。**「... それゆえ， われわれも 主に 仕えます． 主はわれわれの神だからです」（ヨシュア記 24:18）**雰囲気に流され断言する言葉は、確定された心から出てくる言葉ではありません。カナンの地に定着したイスラエルの民が隣国に無数に侵奪を受けており終えるは異邦の捕虜になって行った理由は、神と異邦の神を兼ねて仕えたからでした。私たちは、ヨシュアのように、神のみ愛して仕える心を確定し、これを実践しなければなりません。

第二には、 生きるのも 主のために 生き， 死ぬのも 主のために 死ぬことに心を確定しなければなりません。

使徒パウロは、ローマ人への手紙 14 章で語ったのを**「すなわち， わたしたちのうち， だれひとり 自分のために 生きる 者はなく，だれひとり 自分のために 死ぬ 者はない． わたしたちは， 生きるのも 主のために 生き，死ぬのも 主のために 死ぬ． だから， 生きるにしても 死ぬにしても， わたしたちは 主のものなのである」（ローマ人への手紙 14：7,8）**しました。
「生きるのも 主のために 生き， 死ぬのも 主のために 死ぬ」という言葉を具体的に説明してくれる言葉があります。**コリン コリント人への第二の手紙 5 章 9 節では、「そういうわけだから， 肉体を 宿としているにしても，それから 離れているにしても， ただ 主に喜ばれる 者となるのが， 心からの 願いである． 」**しました。
ピリピ人への手紙 1 章 20 節では、「そこで，わたしが 切実な 思いで 待ち 望むことは，わたしが， どんなことがあっても 恥じることなく， かえって， いつものように 今も，大膽に 語ることによって， 生きるにも 死ぬにも， わたしの 身によって キリスト があがめられることである」としました。私たちが神を喜ばれて、主を尊いしようとする目標を持って行うと、場合によっては人の意を逆らって、人の気持ちを傷つけられることを覚悟しなければなりません。　神を喜ばせることが人を喜ばせることもあるが、そうでない場合があるからです。「私は生きても主のために生きて、死んでも主のために死ぬことに、私の心が確定しました」と言うことができる人は、本当に賢く幸いな人です。

第三には、すべての事に最善を尽くして、その結末は、主の主権に完全に任せることに心を確定しなければなりません。

聖徒は、神は絶対主権者であるのを知らなければなりません。ある人が、あるしもべを呼んで、自分が他国に行ってくる間、自分の所有を任せました。ある人には五タラントを、あるには二タラントを、もう一人は一タラントを与えてから離れ去りました。ずっと後に所有の主人が来て、彼らと計算しました。 5 タラントを受けた者は商売して残した 5 タラントをもう持ってきました。二タラントを受けた人も二タラントをもう持ってきました。主人が二人とも賞賛しました。 **「主人は 彼に 言った， 『良い 忠実な 僕よ， よくやった． あなたはわずかなものに 忠実であったから， 多くのものを 管理させよう． 主人と 一緒に 喜んでくれ 』**ところが、一タラントを受けた者は、言った、**「 一 タラント を 渡された 者も 進み 出て言った， 『ご 主人様， わたしはあなたが，まかない 所から 刈り， 散らさない 所から集める 酷な 人であることを 承知していました． そこで 恐ろしさのあまり， 行って，あなたの タラント を 地の 中に 隠しておきました． ごらんください． ここにあなたのお 金がございます 』**としました。 主人は、彼の責めた後 僕を 外の 暗い 所に 追い 出すがよい としました。　五 タラントと二タラントを受けたしもべは、あまりにも過重であるか、少ないか、考えていませんでした。ご主人様の主権について判断していない。各自に与えられたのをご主人様のために働きをする機会だと認識してすぐに行って商売して利益を残しました。ところが、一タラントを受けた者は、苦情を持ちました。ご主人様が彼を差別したと考えるとひいきに意欲がありませんでした。彼は奇妙な詭弁を作りし、そのタラントを地に埋めたままのんびりしていました。彼は与えられた状況をチャンスに思わず頭痛に考えました。
この比喩は、主の主権を認めて、主の御心に順応する人と、主の意を判断して逆らって行なう人の結末がどのようなのか教えてくれます。主の主権と意に順応して、何事にも最善を尽くし、結末は、主に完全に任せることに心を確定した聖徒は肯定的であり、楽観的に生きるようになります。

あなたがた皆が神だけを愛して仕えるに心を確定し、生きても主のために生きて死んでも主のために死ぬことに心を確定し、すべてのことに最善を尽くして、その結末は、主の主権に完全に任せて生きるように心を確定した聖徒として生きるようにしてください。そして詩篇の著者のように、**「神よ、 わたしの 心は 定まりました． わたしは 歌い， かつ ほめたたえます」**と言って賛美するのを願います。